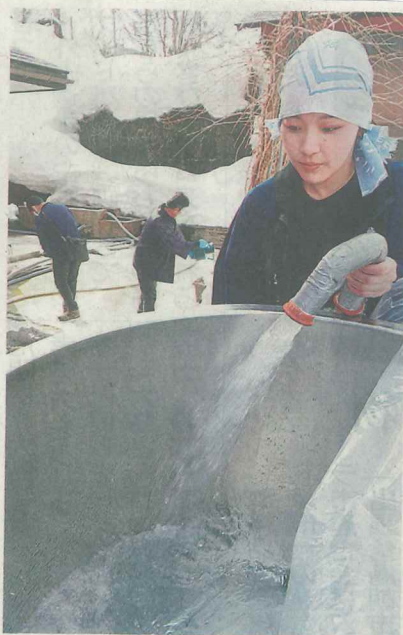


2025年(令和7年)1月28日(火曜日)

中 一 新 聞

雪中酒造りに向けて水をくむ蔵人ら＝飛騨市河合町元田で



## 雪中酒造りへ採水 河合

飛騨市河合町の特産品「飛騨かわい雪中酒」の醸造に向けた採水作業が27日、同町元田であった。製造元の渡辺酒造店(同市古川町)の蔵人ら3人が、天生山麓のわき水約500リットルをタンクに入れて運んだ。雪中酒は、地元産の酒米

「ひだほまれ」を使った純米吟醸酒。豪雪地帯の河合町で地域おこしとして造られ、今年で32年目となる。同市の第三セクター「飛騨ゆい」が事業を手がける。天生山麓のわき水は石灰質を多く含む中硬水で、よく発酵して味わい深くなる

という。計2回で2500リットルを採水し、720リットル入りで3千本を製造する。仕上がった酒は、3月下旬に町内の雪室に搬入して夏の出荷まで熟成させる。1本4500円、2本7800円で販売する。

採水作業を見守った飛騨ゆいの中畑広一社長(72)は「今年は雪が多かったため期待している。まろやかでフルーティーな飲み口に仕上がってほしい」と話した。(坂本圭佑)